

第7回 河野裕子短歌賞決まる

「第7回く家族を歌う」河野裕子短歌賞(産経新聞社主催、京都女子大学共催)の入賞作品が20日、発表された。応募総数1万5262首。歌人で河野さんの夫、永田和宏さんら5人の選者が選考会に臨み「家族の歌・愛の歌」「自由題」「青春の歌」の河野裕子賞(最優秀賞)などを選んだ。選考経過は次の通り。

切なさ、力強さを伝える



河野裕子

かわの・ゆうこ 昭和21年、熊本県生まれ。京都女子大学在学中の44年、「桜花の記憶」で角川短歌賞を受賞しデビュー。平成21年に『母系』で斎藤茂吉短歌文学賞と逄空賞を受賞。宮中歌会始の選者を務めた。乳がんを患いながら同年9月から産経新聞夕刊で、家族によるリレーエッセー「お茶にしようか」を連載(後に『家族の歌』として出版)。22年8月、64歳で死去。他の歌集に『ひるがほ』『歩く』『蟬声』など。

「夢に見る息子はいつも幼子で手をさしおいて助けてくれる。切ない歌ですね。息子さんは成長しちゃっているんですよね。私も、子供が思春期ぐらいのとき、小さいころの夢をよく見ました。僕 もう決して助けてやれない、という現実を歌ったところが切なくて、とても好きな歌です。」

東 「家族の歌・愛の歌」部門の「夢に見る息子はいつも幼子で手をさしおいて助けてくれる。切ない歌ですね。息子さんは成長しちゃっているんですよね。私も、子供が思春期ぐらいのとき、小さいころの夢をよく見ました。僕 もう決して助けてやれない、という現実を歌ったところが切なくて、とても好きな歌です。」

島田 「夢に見る」とあり助けてやれないと認識させられる。昔のように助けてあげられないけど助けてほしい。複雑な心理を歌ったところにひかれま

永田 「自由題」の作品で心に残ったのは「見送りに「てがみ」と指で書いた窓廃線の駅今は紫陽花」。ノスタルジックな歌です。出征のときの歌かも知れないし、就職、単身赴任をするときの歌かもしれない。メールがない時代であったことは確かで、手紙だけが唯一の手段。その時代の記憶が今、廃線になった駅に立って詠まれている。僕 映像が浮かびますよね。「窓」もぴっぴかぴかの新幹線の窓でなくて、ほこりっぽい、いかにも昔の窓という感じがする。

島田 心を込めて伝えるのは今は逆に難しいかも、昔はコミュニケーション能力が高かったのか、など考えさせられました。

池田 「青春の歌」から「干からびたカエルをよけてすすみゆくばいばい、わたしは夏をのりきる」を選びました。高校生でさえ乗り切りがたい夏だったのか。それでも若さの勝利感というか、「ばいばい」に力強さを感じました。

俵 「干からびたカエル」に親しみと共感がある。私だって一歩間違えたら、君みたいになったかもしれない。君の分までがんばって生きるよーという気持ちが伝わってくる。

東 一瞬、カエルに対してちょっと冷たいかなと思いましたが、発想が面白い歌。今回はいい歌が多くて迷いました。

島田 結句の響きが強く、人生の苦しい局面も乗り越えるぞという気持ちが現れていました。一方で「ばいばい」という軽さも。心の調子が言葉に乗って出てきている感じがします。



選考に臨んだ(左から)島田幸典、池田理代子、東直子、俵万智、永田和宏の各氏。9月25日、大阪市浪速区の産経新聞大阪本社(渡辺恭見撮影)

選者

- 池田理代子<いけだ・りよこ> 漫画家、声楽家
- 俵万智<たわら・まち> 歌人
- 永田和宏<ながた・かずひろ> 歌人
- 東直子<ひがし・なおこ> 歌人
- 島田幸典<しまだ・ゆきのり> 歌人

入賞者は次の通り(敬称略)

【河野裕子賞】家族の歌・愛の歌部門

- 永田和宏(大阪)▽自由題部門
- 南部太(島根)▽青春の歌部門
- 石名萌(鳥取)

【選者賞】池田理代子選

- 田島美代子(東京)▽俵万智選
- 大場ヤエ(千葉)▽永田和宏選
- 武村美子(奈良)
- 東直子選
- 長野太亮(大阪)▽島田幸典選
- 鶴長優菜(岡山)

△家族の歌・愛の歌▽産経新聞社賞

- 松田美智子(大阪)▽京都女子大学賞
- 太田ミチ子(島根)▽京都府知事賞

賞

- 清水恭子(京都)▽京都市長賞
- 高橋佳子(同)▽湖南市長賞
- 梶本和美(兵庫)▽京都女子学園長賞
- 北川養子(大阪)▽『短歌』編集部賞
- 香川文(山口)▽NHK出版賞
- 井寺容子(福岡)▽短歌研究社賞
- 日隈京子(東京)▽青磁社賞
- 伊東澄子(同)

△自由題▽産経新聞社賞

- 佐々木千代子(鳥取)▽京都女子大学賞
- 杉本真理子(東京)▽京都府知事賞
- 中橋睦美(福井)▽京都市長賞
- 石田満里子(埼玉)▽湖南市長賞
- 小畑定弘(徳島)

△青春の歌▽産経新聞社賞

- 三宮悠奈(東京)▽京都女子大学賞
- 平松静羽(青森)▽京都府知事賞
- 岡川あい(京都)▽京都市長賞
- 角倫彩子(京都)▽湖南市長賞
- 大山莉夢(栃木)
- 京都府教育長賞
- 鹿島浩暉(広島)
- 京都府教育長賞
- 林里美(茨城)
- 京都府教育長賞
- 佐藤允哉(大阪)
- 湖南市教育長賞
- 内村颯翔(山口)
- 京都女子学園長賞
- 田原優衣(東京)
- 『短歌』編集部賞
- 山田美花奈(同)▽NHK出版賞
- 大林真帆(岡山)▽短歌研究社賞
- 大林真帆(岡山)▽青磁社賞
- 徳留雪月(群馬)